「NPO博多の風」広報誌

風人

Fu - Zin

第39号
平成27年4月発行

報告 第33回NPO博多の風フォーラム

「電力会社の現状と課題」

八木 繁氏 九州電力株式会社

報告 第14回
楽文コンテスト表彰式

告知 第14回 博多のおいしゃんと歩こう
追い山笠コース探訪 6月7日開催(予定)

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

平成25年

4月　第30回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師:前田 敦氏(西南学院大学法学部准教授)
5月　第23回　はかたの町クリーン作戦　実施
6月　第12回　追山コース探訪　開催
　　第13回　楽文コンテスト　開催
10月　第24回　はかたの町クリーン作戦　実施
11月　第31回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師:松本 龍氏(元環境大臣)

平成26年

4月　第32回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師:大庭 宗一氏(NPO博多の風 理事長)
6月　第13回　追山コース探訪　開催
　　第14回　楽文コンテスト　開催
11月　第33回　NPO博多の風フォーラム　開催
　　講師:八木　繁氏
　　(九州電力株式会社　原子力コミュニケーション本部部長)

NPO博多の風の歩み

■設立
平成10年　9月
任意団体『博多の風』設立　代表:大庭宗一

■NPO登記
平成12年　6月
『NPO博多の風』として登記　理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)実施

■地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)

■活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催

■協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人
博多の風

〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX　092-263-7188

E-Mail　info@hakatanokaze.jp
URL　http://hakatanokaze.jp

題字:新井光守

第33回

NPO博多の風フォーラム

「電力会社の現状と課題」

去る平成26年月11月22日、第33回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。今回の講演では「電力会社の現状と課題」と題し、九州電力㈱原子力コミュニケーション本部部長の八木繁さんにご登壇いただきました。

■山笠との縁

私は30年以上福岡に住んでいまして、福岡が第二のふるさとといっても過言ではないんですけれども、家では別府出身の女房と（生まれ故郷の）大分弁でしゃべっています。下の男の子が2歳になった9年前から一緒に土居流中土居町の一員に加えていただいております。今日は仲間の皆さんも来ていただいて、しゃべりにくいなあと感じています…。

平成23年3月11日の東北大震災に伴いまして東京電力の福島第一原子力発電所で大きな事故がありました。この事故を契機に電力会社を取り巻く環境は大きく変化いたしました。今日、本当は少し柔らかい話しにしようかと思ったんですけれども大庭さんが「このフォーラムは非常に格調高いもので真面目にやれ」ということなもんで（笑）、主に九電の話になるんですけれども、自分のところはこんなに困ってるんだよというところをお話させていただければと思います。

■利息が1日1億円！

始めに九州電力について簡単に紹介させていただきますと、社員数は1万3千人おります。中には変わり者もいますけれど（笑）、そのほとんどは真面目に働いております。まあ、これだけ社員がいると、これまで全然しゃべったこともないって人間も結構いるんですよねぇ。転勤時期になって居酒屋なんかで飲んでいますと、結構おもしろい人やねえと思って名刺を交わしたら、同じ会社の人やった…なんてこともあります。

今、九電の売り上げは1兆6千億。おぅすごいなあと思われる方もいらっしゃるとは思いますが有利子負債残高、つまり借金は3兆円を超えました。借金が3兆円もある会社なんて酷い話ですよねぇ。その支払い利息が年間380億円、1日あたり1億円以上ということになるんです。そんな会社、聞いたことないですよね？

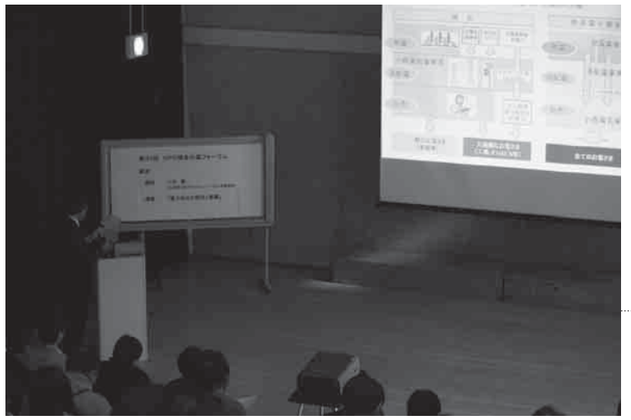
■九電と西鉄の意外な関係！

さて、九電・そして電力会社の歴史をさかのぼりますと明治19年に東京の銀座にアーク塔が灯って、初めて電力の供給会社が誕生しました。その後電力の普及や好景気を背景に、電力の需要は飛躍的に増加しました。ただ、当時は電気事業と他の産業というのは非常に垣根が低くて、兼業することが多かったんです。当時の福岡では「福博電気軌道」や「九州電燈鉄道」といった、電鉄会社と電力会社が入り混じったような形の会社が電力を供給していました。そして当時日本の五大電力会社の一つであった「東邦電力」という会社が九州でも電力を供給していたのですがその会社の中に「福岡支店電車課」という部署があって、電車も走らせていました。その鉄道事業が「福博電車」という会社に分かれて、今の「西日本鉄道」につながっていったわけですね。で、東邦電力のほうも九州での事業が整理されていって、その後、今の九州電力になっていくわけです。つまり「九電」と「西鉄」は兄弟なわけですね。

■時代とともに変わる電源

次に、電源別の発電電力量の推移です。戦後すぐの発電といえば水力がほとんどでした。ただ、国内で採掘される石炭や海外から輸入される石油にだんだん中心が移っていきます。昭和30年代以降の高度経済成長に伴いまして電力の需要がどんどん増加していきました。これにより石油を使った火力発電の開発が進んでいきました。ところが昭和48年のオイルショックから、石油だけに偏っていることのリスクが明らかになってきましたので今度は石油の代わりに海外から輸入される石炭、それから液化天然ガス（LNG）、あるいは原子力といった電源開発が進んでまいりました。平成9年に京都議定書が採決されますと、今度は二酸化炭素などの温室効果ガスの抑制が要請されるようになりまして、火力発電の中でも特に多くのガスを排出する石炭火力発電所の建設というのはとても厳しい状況となっています。そのような折、平成23年に福島で原子力発電所の事故が発生いたしまして、現在は今後のエネルギーミックスの話しがされているところであります。

九州電力といたしましても今お話しした日本全体としての動きと同じように電源の開発を進めてまいりました。水力・火力・原子力など、電力の需要の伸びに応じたところで発電所を作ってまいりました。以来、開発したそれぞれの電源の特徴を活かして発電や電力の供給を行っていたんですけれど、福島第一の事故で原子力の発電は今ゼロになっています。というわけで、原子力分を補うために石炭やLNG、石油を使った発電が増えている状況です。



■原発停止の影響で…

平成7年に「電力の自由化」というのが始まりました。当時、海外に比べ日本の電気料金は2割高いと言われた中、原油の値段が毎年上がっていく状況にもかかわらず電気料金を下げる努力を行ってまいりました。リーマンショックの時に一時的に上がったものの毎年電気料金を下げてきたのですが、福島の事故以降、残念ながら値上げをしなければならない状況になっています。平成25年に料金の値上げをさせていただき、入ってくるお金は確かに増えたのですが、原発停止に伴って石油などの燃料費や他の会社から電力を購入するお金が年々増加しまして、平成23年以降赤字の状態が続いています。赤字の状況がずっと続いているため、純資産、つまり貯金の部分も23年以降どんどん減り続け、今では底をつく状況になっております。

原子力発電所が止まって、とにかく今お金が無いということで「社会貢献」のためのお金も無くなってしまいました。先ほど申したように借金を3兆円も抱えているような会社ですので、これまで行ってきた「ふれあいコンサート」といった催し物ができなくなったり「九州エネルギー館」といった施設も閉館することとなりました。現在は「出前授業」や「スポーツ教室」といった、とにかくお金がかからなくてかつ地域の皆さんに貢献できるようなことを模索しながらすすめている状況です。

また、原子力発電の停止はお客様に対しては電気料金の値上げをお願いすることになり、九電にとっても収支悪化の原因となることなんですが、日本全体にも影響を与えています。日本という国は海外から資源を輸入してそこに付加価値を加えて輸出することで長年豊かになったわけですけれども、平成23年以降、その貿易収支は赤字になっています。つまり輸出に比べて輸入のほうが大きくなっているわけです。全国の電力会社合わせて4兆円程度が毎年燃料代として海外に流出している、いわゆる「国富」がそれだけ外に流出して、日本の貿易赤字拡大の一因となっていることをご理解いただければと思います。

■電力自給率「6％」

電気が灯ってから現在に至るまでの経緯を話してきたわけですけれども、エネルギーの確保というのは、本当に時として戦争の原因にもなるような国家として非常に重要な問題になるわけです。

今、日本のエネルギー自給率は6％しかありません。6％しかない国が必要なエネルギーを確保していくということは大変な作業になってきます。カナダやロシア、オーストラリアといった自給率が百パーセントを超えるような国と比較して日本はほとんど資源が採れません。このような資源の乏しい日本にとって、じゃあエネルギーの確保は今後どのように行っていけばいいんだろうか…ということで今考えられているのが「3E+S」という視点です。つまり「安定供給」「経済効率性」「環境への適合」と「安全性」ということに留意してエネルギーの開発を進めなければなりません。この4月に政府で閣議決定されたエネルギー基本計画の中にもこの「3E+S」を達成させるために、ある特定のエネルギーだけでなく、いろんなエネルギーを組み合わせていかなくてはならない、原子力発電についてもその1つを構成する重要な電源であると提唱されております。また、これに加えて基本計画の中では電力会社として我々が憂慮している「電力システム改革」というのを断行することになっています。

■電力自由化の波

この電力システム改革なんですけれども平成7年に電力の自由化が進められてきて、平成12年から大規模な工場などでは電気を今の電力会社以外から購入できるようになりました。その後、段階的に電力会社以外から電気を買えるお客様の範囲が広がってきています。その結果、九州電力以外からも電気を買うことができるわけですけれども、この量がどんどん増えておりまして今では3千件を超えるお客様が九電以外から電気を購入されています。例えば九州各県にある県庁ももちろん電気を買っているわけですけれども、実はその中に九電は一つも含まれていないんです。このように県庁をはじめ、3千件を超えるお客様が電力会社を九電から他の会社に切り替えているというのが現状であります。

そして平成28年には一般家庭を含む全てのお客様がどこから電気を買うか自由に選べるようになります。その際、電力会社同士が競争する上で、今、送電線や配電線を持っている会社、つまり九電のような会社があるとそこだけが有利になるということで、この小売の全面自由化に併せて、電力会社の「鉄塔や送電施設」「発電」、そして「小売（販売）」に対して別々に免許がいるようになります。つまり、電力会社の解体が始まるわけです。これによって政府は電気料金は下がるんだと言っています

八木　繁（やぎ　しげる）
九州電力株式会社
昭和30年大分生まれ
昭和53年九州電力株式会社に入社、資材部副部長、広報部長などを歴任し、平成24年から現職。
大分舞鶴高校、早稲田大学ではラグビー選手（フルバック）として活躍。
現在は、九州相撲連盟（アマチュア）の会長代行も務めている。

が、私たち電力事業者は一貫してお届けしたほうが絶対に安く電気をお届けできるんだということで反論しているところであります。しかし現在では平成30年～32年の間にそれぞれの事業を別会社にするんだということで政府では計画が進められています。

■原発の再稼働に向けて

福島の原子力発電所の事故では、皆さまに本当にご心配をおかけしました。原子炉の安全確保の基本というのは原子炉を「止める」「冷やす」、そして放射性物質を「閉じ込める」ということが基本です。福島の事故では「止める」ことはできたのですが地震と津波によって原子炉を冷やすことができなくなってしまい、原子炉建屋にたまった水素が爆発し原子炉内部の放射性物質が一緒に外に漏れてしまいました。この事故によりまして今なお、10万人以上の人たちが避難されています。

九州電力の原子力の安全確保の考え方についてですが、現在原子力規制委員会からの新しい規制基準に則って福島の事故を教訓にして安全対策に万全を期していくんだということで、川内原発と玄海原発合わせて三千数百億円かけて安全対策を整えてまいりました。福島と同じような、あるいはそれ以上の地震がきても耐えうるよう、外部電源や非常用の電源といった機械が壊れても次から次へと二重三重の手当てをしているところであります。これは「深層防護」と言われる考え方の一つです。まず異常の発生を防ぐ、それでも異常が発生したときにはその拡大を防ぐ、それでも事故に至った時には燃料の損傷を防ぐための手段をとる…今まではここまでそれ以上の事故は起こりませんよと言っていました。ところが福島の事故で現実的にポンプが動かなくなったり冷やすための水を送れなかったじゃないかということで、私たちは安全神話というのはもう言ってはいけない、我々はもしもまたその次のトラブルが起きた時の対応も想定し、最終的には放射性物質が外に漏れてしまったらという場合まで対策を立てました。普通はこういうことを申し上げると「絶対」はないんだから原発が運転されることによってやっぱり事故は起きるんだなというふうに捉えられるかもしれませんけれども、大きな地震や津波や火山の爆発といったことがあっても耐えうるだけのきちんとした対策をとるようにいたしました。これによりまして昨年の7月に原子力規制委員会に対して必要な申請をいたしたんですけれども、1年以上にわたる審査の結果、今年の9月に許可を頂きました。今から川内原発の再稼動に注力していくつもりですが、その前にまだいろいろな検査などがあります。できる限り27年の最初の頃には川内原発の1・2号機が動けばいいなというふうに思っているところです。これに続いて佐賀県の玄海原発についても規制委員会に申請をしておりまして、許可をいただけるよう安全対策に万全を期しているところです。この申請資料は3つの認可から成っているのですがその1つだけでも5万ページもあるようなものでして500人体制でこの書類を作って提出したところです。

■福島の事故を教訓に

原子力の稼動に対して地域の皆さんにご迷惑をおかけしないようにこれからも自主的に継続的に安全性の向上に努めてまいる所存でございます。九州電力としては原子力の安全性の向上に努めていくと共に、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入をしていきながら、九州の皆さんに安定的に電力をお届けしてまいりたいと思っているところでございます。

最後に、私の肩書きが「原子力コミュニケーション本部」というところなもんで、いっぱいお話しをしたいとこころはあるんですけれども、なかなか現地を見ていただかないと難しいところもございますし、電力会社の独りよがりな部分も感じられると思いますので、今回はお話しいたしません。ただ一つだけ言えるのは「福島のような事故は決して起こさない」という強い決意でこれまで安全対策をとってきたということです。これからも自主的・継続的に安全の向上に努めてまいりますので、皆さんのご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

原子力発電の仕事に携わっていらっしゃるにも関わらず、「3E+S」を満たす電源があれば、原子力がこれからもずっと必要とは思わない」とおっしゃられる八木さん。単に「原発ありきかゼロか」ということではなく、日本のエネルギー事情が国の経済や国富の流出、地球全体の環境や安全といったいろいろな視点からより深い処にあることを講演の中で投げかけていただきました。

福島の事故以来、原発再稼動に対して消極的な意見を聞くことが多いのが実状ですが、電力会社の立場としての率直な意見を聞くことができ、日本のこれからのエネルギーについて改めて考えるきっかけとなった有意義な時間となりました。

（田中　大士）

報告　第14回 楽文コンテスト表彰式

第33回博多の風フォーラムに先立ち、午前中には第14回楽文コンテストの表彰式が執り行なわれました。平成13年から始まったこの楽文コンテストですが、今回も県内の小中学校から1558作品もの応募があり、その中から「博多祇園山笠振興会賞」など5つの賞に計25人の方が選ばれました。表彰式では各賞を受賞された皆さんへの表彰に続き、各受賞者からお一人ずつ作品を読み上げていただきました。どの作品も「大好き」なことをテーマに山笠や部活、家族のことなどについて綴った力作ぞろい！会場では受賞者の皆さんに惜しみない拍手が送られました。

（田中　大士）

告知　第15回 楽文コンテスト開催決定

今年も、楽文コンテストを開催します。詳しい応募期間などは、追ってチラシなどで告知させていただきます。多数の応募をよろしくお願いします。

大庭宗一の大人気エッセイ シリーズ第9弾

「明日への一言。9」

人気シリーズ好評発売中
熱いメッセージがいっぱい
詰まったエッセイ集です
定価600円（税込み）

◆「明日への一言。」①～⑧

◆「自分頑張れ。」①～③

既刊の作品もNPO博多の風のホームページから購入申し込みができます。

http://hakatanokaze.jp/syuppan/syuppan07.html

告知　第34回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内

■開催日時：平成27年5月23日（土）　開場：13:00／開演：13:30　■開催場所：博多小学校「表現の舞台」

講演　『博多火消浅学勲（はかたひけしせんがくのいさおし）』第2話-地震に備える自身の自信-　講師　因幡　敏幸氏
（春日大野城那珂川消防本部　勤務）

※ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。多数の方のご参加をお待ちしています。

風人来人（事業紹介）　出版事業

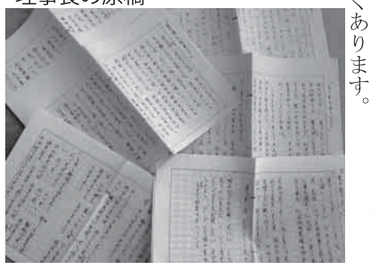
■体制とスケジュール

出版事業は実務を4人体制で進めています。原稿執筆は理事長にお願いしていますが、各章立てやページ割りは実務の4名でミーティングを重ねます。イラストレーターの横川功さんとデザイナーの梶原康司さんにも協力をお願いしています。ここ数年は、1年に1冊のペースで発行してきていますが、理事長の仕事の過密度等その時々の状況に合わせてスケジュールを柔軟に対応しています。

■原稿作成

執筆は理事長におまかせしていますが、ラジオ番組や講演等でお話をされた事などが、そのベースになっています。原稿はパソコンなどは使わず、全て原稿用紙に手書きされています。ほとんどが鉛筆で書かれていますが、特徴としてはその筆圧と漢字の使い方だと思います。非常に力強い筆圧で手書きされる原稿ですが、使われる漢字は敢えて常用漢字でない場合も多くあります。

・理事長の原稿



また、「彼是（あれこれ）」のように通常はひらがな表記されることが多い言葉を、漢字で表記することがあります。その時々の想いを最もふさわしい表現でされているのだと思います。

■文字起こし～構成検討

手書きの原稿を、文字データに起こします。原稿の全てを読みながらミーティングを行い、全体の構成を考えます。非常にもったいないことですが、ここで取捨選択をします。章立て、ページ割りなども、この段階で決定しています。

■イラスト・デザイン

章立て、ページ割りが決まれば、イラスト及びデザインとレイアウトのお願いをします。この本で、イラストの果たす役割は非常に大きく、ひとつひとつの原稿に込められたメッセージを、一つのイラストで分かりやすく表現していただくようにお願いしています。特に、表紙イラストは3～5パターンくらい描いていただき、色も含め理事長やみんなで決めています。

本のデザインって実はとても大切なことなんです。文字の書体、サイズ、レイアウト、余白の使い方などなど・・・。梶原さんのデザインは、本を手に取った人のことがよく考えられているなあと毎回感心しています。

ある程度本の形になったら、校正作業になります。理事長に見ていただく前に3回くらい修正が入ります。その後、理事長に校正とデザイン等全体の確認をお願いしますが、あまり細かいことは言われません。ある程度を私たちに任せていただいています。

■書店挨拶

PRチラシを作成し、書店を回って、新刊取り扱いのお願いをします。通常の本とは流通経路が違う「委託販売」のような形のため、各書店のご協力に支えられています。現在は福岡市内を中心に9つの書店と、RKB本社1階のRKBストアで購入することができます。また博多の風のホームページからもメールでお申込み、ご購入いただけます。

■校正・入稿・印刷

最終確認が終わったら、博多の風の仲間の印刷会社で印刷をします。色々と苦労も多いですが、一冊の本という形になったときの感動は何にも替えがたいものです。

（荒瀬　優）

SCHEDULE

「明日への一言。9」制作

【理事長の原稿執筆後】

8月：　企画スタート

9月上旬：原稿データ化
　　構成打ち合わせ

9月下旬：イラスト作成

10月：　レイアウト

～校正～

11月 中旬：校了・印刷

11月 下旬：書店へ納品

担当世話人紹介

出版事業
荒瀬　優（ゆたか）
（土居流　下土居町）

■山笠との出会い

社会人になってすぐ、仕事の関係で山笠の取材をさせていただきました。

現在お世話になっている町で、6月から追い山までを取材しました。作業中は写真を撮らせてもらい、直会中などにお話を聞かせてもらいました。色んな人が色んな形で関わっている様子が魅力的で、自分もお世話になることになりました。

■山笠をやってよかったこと

学校や会社では教わることのできないことを学ばせていただいています。そして山笠で学んだことが、日常生活でもすごく役に立っていると思います。地元に住んでいない自分が関わらせていただいていることに感謝しています。

山笠に出会えてなかったら、現在の自分はなかっただろうと思うくらい、自分の人生にとって大きな出会いだと感じています。

告知　第14回 探訪 博多祇園山笠追山コース

平成27年6月7日（日）開催（予定）

恒例の「追山コース探訪」が今年も6月に開催されます。当番法被に身を包んだ「おいしゃん」達と追山コースを廻りませんか？山笠の歴史や舁手ならではの迫力ある解説など、ここだけの話もとびだしますよ！

募集案内は、GW前後に新聞紙上、ホームページで告知させていただきます。多くの方のご参加をお待ちしています。

第12回の模様（平成25年6月）

報告　平成二十七年度総会

平成27年2月21日（土）開催

各担当理事および幹事の出席のもと、山口理事の司会で今年度の総会を実施しました。「平成26年度事業報告、決算、監査報告」「平成27年度事業計画、予算審議」「役員人事」などについて審議を行い、承認されました。

平成二十七年度の役員人事については、博多の風ホームページに掲載しています

～ＮＰＯ博多の風 ホームページ～

NPO博多の風の最新情報はホームページに掲載。
内容は随時更新中です。
設立趣意書や定款なども
まとめております。

URL　http://hakatanokaze.jp

賛助会員募集中

我々「ＮＰＯ博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。

お問合せ
「ＮＰＯ博多の風」広報企画（担当:山口）
E-mail　info@hakatanokaze.jp
FAX　092-263-7188

～編集後記～

4月5日に家康公の人形を乗せた山笠が静岡市のメインストリートを駆け抜けました。静岡市、静岡商工会議所などの招請を受け、徳川家康四百回忌の記念イベント「静岡まつり」に出る形で、私の町内も福岡からだけではなく、関東からも数名参加しました。天気はあいにくの雨模様だったようですが、男達の熱気で静岡を熱くする事ができたようです。参加した人たちも、「いつもと違う場所で、他流の人と一緒に山笠を動かすことが面白かった」「つき方や舁き方も違って戸惑いもあったが良い経験ができた」と言っていました。

山笠ゆかりの聖一国師を取り持つ縁で実施されたとはいえ、福岡を出て山笠を動かす事は準備段階から本番当日まで、いろいろと大変な事があったのだと思います。運営に携わった方々に感謝するとともに、さまざまな縁の中で、いろいろな人の想いが形になった結果が、静岡で山笠を舁く事に繋がったのだと思いました。

（中山　肇）